

「人々が喜ぶ商品を」

～エアコン1号機のエピソード～

1957(昭和32)年、電機事業部が水冷式のルームクーラー(冷房機)を開発、技術や製造の担当者らが、その試作品を門真の幸之助の居宅に据え付けにいきました。これは、日本家屋の様式を考慮して独自開発した、小型軽量で比較的低価格のウインド型クーラーでした。

設置が完了し、試運転をしていると、帰宅して風呂から上がってきた幸之助が現れ、「ああ、これがクーラーか。風が冷たいなあ、いい気持ちやなあ。これがあったら、夏、高野山に登らんでもええな」と言い、それから独り言のようにぼつりとつぶやきました。「これが安くできたら、世の中の人々は喜ぶやろうな」

翌1958年、当社は業界に先駆け、この商品を家庭用の「ナショナル・ホームクーラー」と名付けて発売しました。その翌年にはクーラー事業部を発足し、本格的に事業を開始。さらに2年後の1961年には、南ベトナム向けの輸出を開始して、海外にも「快適」を届けるようになりました。



1958年に発売された「ホームクーラー」(幸之助の旧宅にて撮影)



松下幸之助会長(当時)がクーラー事業部を視察、山下俊彦事業部長(当時)が案内(1970年)